

### 自己評価及び外部評価結果

[事業所概要(事業所記入)]

事業所番号	0172901225	
法人名	有限会社 ほほえみゆたか	
事業所名	グループホーム すてきだね 1F	
所在地	旭川市東光15条5丁目2番12号	
自己評価作成日	平成24年1月27日	評価結果市町村受理日 平成24年2月16日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901225&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901225&amp;SCD=320</a>
-------------	---

[事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)]

<ul style="list-style-type: none"> <li>・その人らしい過ごし方を尊重し、いつも笑顔の絶えない生活を支援している。</li> <li>・その人らしく笑顔で毎日をごさせる様、家庭的な雰囲気職場作りを目指している。</li> <li>・入居者さんの安心安楽に努め、優しく、時には厳しく、家族の様なつながりを持ち見守りを行っている。</li> <li>・家庭的な雰囲気でも明るい職場、入居者さん家族とのコミュニケーション作りにも積極的に取り組んでいる。</li> <li>・入居者さんがいつも笑顔で過ごせる様に家族の様に見守り、つながりを大切にしている。</li> <li>・一人ひとりのペース、生きがい、何よりも毎日を楽しんで暮らせるよう心掛けている。</li> <li>・入居者さんとの信頼関係が築けるように日々の関わりを大切にしている。スタッフも笑顔で居られる様に心掛けている。</li> <li>・全ての入居者さんが安心して暮らせるように見守っている。</li> <li>・2ヶ月に1度の大正琴のボランティア訪問をして頂き楽しんでもらっている。</li> <li>・母体である山下整形外科PTの協力の下リハビリに通い体力低下の予防を行っている。</li> <li>・皆さんが楽しんで頂ける催しを色々計画している。(バスを利用した外出・お祭り・花火大会等)</li> </ul>
---

[評価機関概要(評価機関記入)]

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年2月8日

[外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)]

<p><b>・より良く暮らしてつづけるための支援</b></p> <p>このホームは、母体が医療機関なので医療の連携をはじめ、各専門士の有資格者やスタッフ数を充実させ、安全・安心の個々に合わせたケアに取り組んでいる。また、事業所が目指している家庭的な雰囲気職場作りと利用者さんがいつも笑顔で、安心して暮らせる介護に関わる創意と工夫の取り組みが随所であり、熱意ある管理者とスタッフのチームワークのなかで一体的な介護サービスの支援に努めている。</p> <p><b>・家族との絆となる連絡網</b></p> <p>毎月「すてきだね通信」を発行して、ホームでの近況や開催された行事などを掲載し、家族とのつながりを大切にしている。特に、一口メモとして認知症の症状などを取り上げ、編集に工夫がされている。また、担当スタッフから個々の利用者の近況の生活状況や健康状態が写真入りで詳しく掲載されており、利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、家族と職員の思いや協力関係が築ける取り組みがある。</p>
--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	この地域で、その人らしく暮らし続けることを支えるサービスとして、独自の理念を作り玄関へ掲示、パンフレットに掲載している。ミーティングを通じ話し合い実践に向けて取り組んでいる。	地域で、その人らしく暮らし続けることを支えるサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげて、玄関への掲示、パンフレットに掲載している。また、ミーティングを通じて話し合い、職員が理念を共有している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事への参加、ボランティアの受け入れ、ホームの行事(ほほえみ祭)の参加呼びかけを行なっている。	ホームの呼びかけの「ほほえみ祭り」の参加や町内行事の花植え等の参加を通じて地域との交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも相談に乗られるように体制を作っているが、なかなか発信する事が出来ていない。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	話し合いを行い、サービス向上に活かせるようにしているが、行えていないのが現状でありまだまだ課題はある。	火災避難訓練や防火対策をはじめとして、地域と施設との連携・協力や施設のサービス向上に活かせるよう具体的に話し合っている。	今後は、色々な開催の方法を考慮しながらの年6回を目安にした運営推進会議の開催を期待します。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護高齢課や地域包括センターと積極的に連絡、協力関係を築いている。	市担当課や包括支援センターとは、日常業務を通じて情報交換や助言を得ながら、連携を深めるように努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等で話し合い、玄関の施錠及び、身体拘束は行っていない。夜間のみ防犯の為玄関の施錠は行っている。	身体拘束廃止で管理者及び職員の認識の共有が行われている。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に学ぶ機会は設けていないが、その都度、話をし防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に学ぶ機会はないが、職員は当たり前前の事として出来ているが、難しく考えすぎているので、わかりやすく伝える工夫が必要と考えている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は十分に行っているが、その場限りで、しっかり理解・納得を得られているかは、完璧ではない様に思える。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置している。 すべての職員が意見を聞ける体制に努めている。意見があれば、反映するように努めている。	家族や来訪者等が管理者、職員に意見や苦情等を言い表せるような体制作りに努めており、苦情等の受付箱も設置している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常、何でも言える様な関係を築いている。 提案があれば、その都度反映できるように努めている。	日頃から、日常業務通じて、意見や要望、提案を尊重し、運営に反映している。また、管理者とスタッフが何でも言える関係を構築している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場管理者より、個々の実績報告を受け状況を把握し査定、希望の休日や賞与にて反映している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加、勉強会を設け取り組んでいる。 出来ない場合は、その都度アドバイスを行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、地域包括センターの勉強会に参加し交流を図っている。 職員の交流の場を設ける事は今後の課題と考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の前に話し合いの機会を持ち、本人との面談を行い、ご家族等から情報を得て、信頼関係を築けるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様に話し合いを行い情報を共有し要望を聞き、良い関係を築けるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況、家族の要望を十分に見極め判断し対応するように努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごしているという気持ちを忘れずに、支えあい、良い関係を築けている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	初期段階で共に協力し、本人を支援していく事を話し合い同意を得ている。 家族との関係は良好で、共に協力し合って毎日の生活を送っている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めているが、入居者本人が徐々に出来なくなって来ている。 馴染みの場所や人を忘れないように、日常の会話に話題の提供を行うように努力している。	年々重度化して、入居者の身体機能が低下してきているが、馴染みの場所や人との交流が途切れないよう、支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立させないように声掛け等を行なっているが、利用者同士のトラブルがあった場合は、職員が間に入り、問題が拡大しない様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談にはいつでも対応できる体制は出来ている。 今までに契約終了後の相談等の事例は無い。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話から本人の思い等情報を得て、アセスメントを行い、ミーティングを行い検討している。 困難な事もあり出来ていない事もある。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向をコミュニケーションの中から聞き出し、把握に努めている。また、職員間で情報の共有が行われている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報を得て、把握に努めている。 最低限以外、自由に生活して頂ける様に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日様子確認、日頃の何気ない行動を注意し確認して、心身状態の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との話し合いは少ないが、家族の要望を聞き、現場スタッフ全員でアセスメント、モニタリングに意見を記入して、ケアマネがまとめ、スタッフの意見を反映し入居者の現状に即したケアプランとなっている。変化時は、暫定プランを作成し様子を見ている。	定期的にケアの有り方について、カンファレンスを行いながら入居者の状況を全職員が把握している。また、カンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に記入し情報の共有は行なっている。時々情報が伝わらない事もある。 問題が起きた時はケアプランの個別見直しをしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体である、山下整形外科でのリハビリの活用。 調剤薬局との連携で必要備品の購入等。 柔軟な支援体制は出来ている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事参加や、地域の季節の催しへの参加、外出を好まない方が多くなって来ており、出掛けないで楽しめる事を探し提供している。ボランティア等、		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院との関係は良い。 家族の希望があれば、望みの病院の受診をもらっている。 必要に応じて往診にも来てくれる体制が出来ている。	医療機関が母体の施設であり、すぐ近くには協力病院もあり、医療の連携が確保されている。また、本人や家族が希望すれば、かかりつけ医の受診の支援もしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報を共有し適切な対応を出来る様に支援している。 日常の些細な事でも報告するようにしている。 必要に応じて、受診の指示や、対応の指示をもらっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、定期的に様子を見に行き、家族より情報を得て、早期退院に向け支援している。 入院した際に、病院関係者と話をし、状況に応じてですが、なるべく早く退院出来るようをお願いしている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要になった場合は本人と家族の思いを最優先に考え、医者、看護師と相談し対応を判断し、出来ると判断した場合は、チームとして支援に取り組んでいる。	早い段階から重度化した場合や終末期のあり方を本人・家族等と話し合いを行い、医師、看護師と相談し、対応を判断した場合には、事業所ができることを十分に説明しながら支援に取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習会の受講。 今後も、受講していないスタッフを対象として受講の予定。 緊急マニュアル参照。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施。地域への連絡体制の依頼もしている。	年2回の避難訓練の実施や救急救命の訓練も実施している。また、設備の定期点検や地域との連絡体制や協力体制の取り組みをしている。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心がけて対応している。信頼関係が出来て柔軟な言葉使いになる場合もあり、定期的なミーティングが必要と考えている。	入居者に誇りやプライバシーを損ねるような言葉使いがないようコミュニケーションや言葉かけに努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけているが、中々思いや希望は聞かれない。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に支援しているが状況により、都合を優先する事もある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは綺麗で居られる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片づけを負担にならない方と一緒にいる。	負担にならないように、一人ひとりの好みや力を活かしながら食事の準備、後片付け等職員と一緒にいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用し把握している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがい、歯磨きを行っている。声掛けが必要な方へは必要な介助も行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用しパターンを把握。必要な時、素振りがある時は声掛け誘導している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように声かけや誘導し、オムツを使用しない自立に向けた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や乳製品の活用等で個々にあわせて支援している。 個々に応じて、下剤の使用も行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状では希望通りの入浴は難しく、職員の都合にあった時間帯の入浴になっている。その日に入りたいと希望があった場合、希望を聞けるようにしている。入浴拒否の方にも、無理には勧めていない。	週2回を目安に、一人ひとりのタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、その日に本人の入浴の希望があれば、希望を聞ける対応になっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はロビーのソファで自由にくつろげるようになっている。自室での休息を望まれる方には、希望通りにしている。夜間の睡眠に支障のない様に、声掛けも行っている。夜間は、一人ひとりの状況に応じてDrと相談し薬を服用している方もいる。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬一覧表がファイルされており、いつでも確認出来る様にしている。新しく処方された薬があった場合は、服薬後の状況を十分気を付けて観察している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	2ヶ月に1度の大正琴のボランティアの受け入れや、レクを行い、楽しみ時間を作っている。 茶碗拭き等できる事を役割として行ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力は必須。 近場での散歩や日光浴など行っている。 冬場は、なかなか出かけるのは難しいのが現状。 お花見や町内のレクの見学等は出来るだけ見にいけるように支援している。	年々、身体機能が低下してきており、全員での外出の支援が難しくなってきたり、近場での散歩や日光浴を行っている。また、遠方へ出かける場合には、家族にも協力をいただきながら支援している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方は、所持し使える環境を作っている。 現状管理できない方がほとんどになっている。			
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には自ら電話をかけられるように、家族とも相談し行っているが、現在は自ら電話をしたいと訴える方がほとんど居ない。			
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファや椅子を利用して居場所を作っている。不快に感じるような物等には気をつけている。 季節感が感じられるように飾り付けの工夫をしている。	共用空間は、広く、明るく、入居者にとって思い思いに過ごせるソファや椅子、テーブルを置きゆったりとした雰囲気に配慮している。また、室温もチェックし、適温に保たれており、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	置いてあるソファがいつの間にか自分専用の場所と定着し居心地の良い場所になっている。			
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、居心地の良い空間になっている。介護が必要になった場合も、相談しどちらも負担にならない様に工夫している。 家族の写真を飾っている。仏壇を置いている方もいる。	本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせる雰囲気づくりの支援をしている。また、身体機能に配慮した居室の工夫をしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせ、負担にならない様に工夫し支援している。			



### 目標達成計画

作成日: 平成 24年 2月 8日

#### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の定期的開催が出来ていない	運営推進会議定期開催	年間予定を立てる ・日程 ・内容 ・構成メンバー	1年
2	7 14 17 34	その都度、話し合いをしているが改めて学ぶ機会を設けていない。 同業者との交流の場がない 薬についての理解が不十分である 救命講習会以外の勉強会がない	介護力の向上	・勉強会の開催 ・研修会への参加 ・資格取得の支援 ・他施設への見学 など	1年
3	48	日常的な外出支援	季節に合わせた外出計画 春 花見 夏 公園へドライブ 秋 紅葉見物 冬 冬まつり見物 等	・計画を立てる。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901225		
法人名	有限会社 ほほえみゆたか		
事業所名	グループホームすてきだね 2F		
所在地	旭川市東光15条5丁目2番12号		
自己評価作成日	平成24年1月27日	評価結果市町村受理日	平成24年2月16日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日が笑顔で安心で安全に生活出来るように力を入れている。</li> <li>・安心安楽安全、入居さんが毎日笑顔で過ごせるよう、穏やかで優しい対応を心掛けている。気配り目配り心配りに力を入れて頑張っています。</li> <li>・スタッフ数を充実させ、安全・安心なケアを提供している。</li> <li>・介護福祉士・ケアマネジャー・認知症ケア専門士などの有資格者を多く有している。</li> <li>・入居さんやご家族が笑顔で過していただける様、スタッフ一人ひとりが入居さんそれぞれに合ったケアを提供している。</li> <li>・共有スペースで皆さんが会話をされたり、スタッフも入り、カルタや百人一首、歌など日々交流出来ている。体調を把握する為、食事・水分摂取量、排泄チェックなどに努めている。</li> <li>・入居さんが安心して暮らせる様、一人ひとりに応じた支援を行ない、信頼関係が出来るよう努めている。入居さんのようばうに応じて介助、笑顔で過ごせる様、穏やかで優しく対応に心掛けている。</li> <li>・入居さんが一人ひとり、穏やかにあたり前の生活を混然なく過ごせる様、支援している。出来るだけご本人の要望に添える様、スタッフの都合にならぬよう気をつけている。</li> <li>・スタッフも笑顔で明るい環境で過すよう努めている。昼寝の時間を作り、スタッフにも余裕が生まれ入居さん一人一人でも過せる時間が持てるようになっている。</li> <li>・昼寝を希望しない入居さんには個別または少人数でのケア出来ている。</li> <li>・入居さん一人ひとりに合ったケアを心掛けている。家庭的な雰囲気の中で入居さんが安心して過ごせる様、スタッフ一同協力し、見守り、声かけなどを行っている。とても明るい職場でスタッフ同士も仲が良い。</li> </ul>
---

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901225&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901225&amp;SCD=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年2月8日

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元との関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「すてきだね 笑顔がいいね この家でそれぞれの そしてみんなの 今が生きてる」を理念と掲げ笑顔の絶えないホームを目指してスタッフ一同実践している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、会合等にスタッフが参加。町内の行事には入居者さんと参加している。(草取り・花植えなど)事業所の行事を町内の方に呼びかけ、参加してもらっている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて理解を得られるよう努めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの様子やケアについての報告を行なっている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町内会長さんや役員の方と良い関係が築けており協力できている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から身体拘束について認識し、身体拘束ゼロを目指したケアを行なっている。身体拘束はしていないが、具体的に正しく理解し実践に繋がれるよう学ぶ機会を増やしたい。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	感情のコントロールに心がけ、虐待防止を行なっている。管理者は常にスタッフの心理変化に気を配り必要時には面談を行なっている。虐待はないが全体として学ぶ機会を増やしたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に学ぶ機会がないが、スタッフは当たり前の事として出来ているが、難しく考えている為、今後、解りやすく伝える必要がある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行ない、理解を得ている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに積極的に要望等を尋ね、可能な限り希望を取り入れ運営に反映している。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃からスタッフの意見を尊重し、反映している。また必要時は事務長へ報告し反映している。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場管理者より、個々の実績報告を受け状況を把握し、査定、希望の休日や賞与にて反映している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加や勉強会を設けることで職員を育てる取り組みを行なっている。研修に参加する機会を増やしたい。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等を通じて同業者と交流する機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階でコミュニケーションを多く取り、その人を早く理解できるよう努めている。ご本人の要望を聞き入れ、困ってこないように関係を築いている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の希望や不安を聞き入れ、安心して入居して頂けるように関係を築いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が必要としている支援を提供できるように情報収集をして対応している。またご家族ともコミュニケーションをとり、思いをくみ取れるよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的にケアを押し付けるのではなく、共同生活を共にしているという立場で関係を築いている。家庭的な雰囲気の中で一緒に生活をしている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共にご本人を支えていける様に、ご家族との情報交換を絶やさずに行っている。状態報告書などを作成し伝えたり、状態に合わせてケアの方法をご家族と相談している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めているが、ご本人が徐々に出来なくなっている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士の関係を把握し、協力して生活を送れるよう支援している。スタッフが間に入り共通の話題などを提供し、関わり合える場面を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ面会に行ったり、ご家族には季節のご挨拶を出している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の様子、ご本人の言葉を通じ、ご本人の意向を理解するよう努めている。意向に添うように努め、入居者さん本位の支援をしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取り、日頃の会話や関わりの中から入居者さんの生活歴を知り、支援に役立てている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子観察を行ない、入居者さんそれぞれの状態を把握し、状態に合わせた支援をしている。能力を奪わないように支援をしている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度ミーティングを行ない、入居者さんの現状に即した支援をしている。またケアマネともモニタリングや状態報告、ケアの変更などに話し合いケア計画に反映している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を実施し、スタッフ間で情報を共有しケアをしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者さんそれぞれのニーズに対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括支援センターとの協働できている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を大切に、希望の医療機関を受診している。協力医以外の受診についてはご家族に協力を頂いている。協力医、他病院とも状態報告を行ない、連携を図っている。また相談等も行なえる関係が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師出勤し、情報を共有し適切な対応を出来るように支援している。常に相談、指示をもらっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は定期的にお見舞いに行き様子を伺い、ご家族から情報を得ている。早期退院に向け、医療関係者、ソーシャルワーカーと情報交換し支援している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期にはご家族や医療機関と協力し、最善の方法をとるよう取り組んでいる。ターミナルケア研修を受講している。看取りケアについての指針を検討中。実施に向けて取り組んでいる。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習会を行なっている。今後、応急手当、初期手当について、もう少し取り組みたい。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。十分ではないが地域への連絡体制の依頼もしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者さんそれぞれの誇りやプライバシーに配慮した対応に心掛けている。丁寧な言葉かけを意識しているが、やや欠けてしまう時あり。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さんの希望に添った支援をしている。能力に応じ自己決定が出来るように工夫をし、働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々で状況で都合を優先する場合もあるが、その人らしい生活が出来るように入居者さんのペースを大切にしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装、清潔保持に心掛けて支援をしている。季節の行事時などには皆さんにお化粧をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さんの力に合わせて食事の準備や後片付けを一緒に行なっている。またそれぞれに合った食事形態を取り入れ、食器や盛り付け方を工夫している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量をその都度確認し記録している。入居者さんに合わせた方法で摂取して頂いている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にそれぞれに合わせた口腔洗浄を行なっている。状態によっては不十分なこともある。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンに合わせた声かけや支援を行なっている。失敗への配慮が不十分などあり、今後改善へ取り組んでいきたい。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に冷たい牛乳を飲んでもらったり、運動をする事で便秘を予防している。必要時には医師に相談し、薬の調整を行なっている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日程についてはスタッフの配置などの理由によりホーム側で決めているが、体調や思いに添って個々にあった支援を行なっている。ゆっくり楽しめる、気持ちの良い入浴になるよう努めている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝の時間を設けている。一人の時間が持てたり、個別の支援が出来るなど、ゆとりケアが出来ている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合はその都度申し送り、症状の変化に気をつけている。また薬の説明書がいつでも閲覧できるようになっている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの好みや能力に応じたレクリエーション、お手伝い等して頂いている。状態の合わせた役割を持ってもらっている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り入居者さんの希望に添って外出支援している。スタッフの配置によって外出の希望に添えないことがあるが、ご家族に協力をお願いしている。協力が得られない場合もある。初詣、お祭り見学、お花見など季節の外出を取り入れている。重度化してきて困難な現状もある。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	不安症状の原因になる方もおり、お金の所持が困難になっている。ほとんどの方が所持していない。要望があれば預かり金で買い物に出掛けている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはその都度、支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り付けをし、きれいな空間作りを行なっている。トイレ、浴室等には解りやすいように札を付けている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のソファや椅子を各所に配置し、気の合う方と一緒に座れる工夫をしたり、一人でも過ごせるようにしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた馴染みの家具や家族の写真、飾りなどを置いている。状態に応じ安心安全な空間となるようご本人、ご家族と相談しながら配置換えを行なっている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等は解りやすく札を付けている。車椅子でも安全に通行できるように通路は十分な幅を取っている。歩行できる方には安全の為手すりを各所に取り付けている。工夫が必要な所もある為、取り組んでいきたい。		

## 目標達成計画

作成日：平成 24年 2月 8日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34	・緊急時の病状別の対応が解らない ・夜間急変時、一人で入居者さん全員の対応に不安がある	緊急時の対応を身に付ける	・救命講習会の開催を増やす ・勉強会の開催	1年
2	13	・全体でのミーティング、カンファレンスが少ない。 ・スタッフ全員の意見を聞く機会がない。 ・症状、病状によつてのミーティング、カンファレンスなどがない。	情報の共有	・意見交換の場を作る	1年
3	1 8 14 34	・研修が少ない。 ・理念や制度の理解が不十分である。 ・同業者との交流機会、意見交換の場がない。	介護力の向上	・研修会への参加 ・勉強会の開催 ・他施設への見学 ・資格取得への支援 ・自己向上心の育成	1年
4	7 13 36	・毎日同じ顔ぶれの中、ゆとりがなくなりスタッフも感情的になることがある。	感情のコントロール	・接遇を学ぶ	1年
5	13	・認知症の進行により生活を見直す必要がある。	認知症ケアを理解する	・研修会への参加 ・勉強会の開催	1年

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。